

2019年3月19日
住友生命保険相互会社

「働き方改革企業 2019 特別賞（評価制度部門）」を受賞

住友生命保険相互会社（社長 橋本 雅博）は、株式会社ワーク・ライフバランスが働き方改革に率先して取り組んでいる企業に贈る「働き方改革企業 2019 特別賞（評価制度部門）」を受賞しました。

働き方改革の更なる推進に向け、人事評価に「時間あたり生産性」の視点を取り入れる対応（生産性評価の導入）を行ったことが評価されました。

当社は今後も、多様な人材がいきいきと生産性高く働く会社の実現に向けて、取組みを加速させて参ります。

3月18日、丸ビルホール（東京都千代田区）にて表彰式が執り行われ、株式会社ワーク・ライフバランスの小室淑恵代表取締役社長より表彰状が授与されました。



(写真右：橋本)

1. 「働き方改革企業 2019」概要

「働き方改革企業 2019」は、生産性向上と働きやすい職場づくりの実現に向けて、働き方改革に率先して取り組んでいる企業を公表することで、社会全体の働き方改革をさらに推進することを目的とした表彰です。（優秀賞 27 社を選び、その中から最優秀賞 2 社、特別賞 5 社を選定。）

今回弊社が受賞した、「特別賞（評価制度部門）」は、時間を度外視して仕事の総量が評価される「期間あたり生産性」を見直し、「時間あたり生産性」を高く評価する制度を実現している企業に贈られます。

2. 当社の人事評価制度の見直し（生産性評価の導入）について

当社では、2018 年度より、これまでの働き方改革をさらに推し進め、「お客さま本位の仕事への集中」「健康でいきいきと働く職場の実現」をすることでお客さま目線での生産性の向上を目指す「WPI（Work Performance Innovation）プロジェクト」に全社をあげて取り組んでいます。

生産性を向上させるためには、業務削減やテレワークを活用した効率的な働き方によって時間を捻出するとともに、その捻出した時間をお客さま本位・マーケット目線の仕事へと転換・集中させることや、自己研鑽や資格取得など能力・スキルのレベルアップに充てることで、成果・アウトプットの量・質を向上させ、お客さま・マーケットに新たな価値を提供していくことが重要となります。

このため、今回、「時間あたり生産性」という考え方にに基づき、人事評価方法に生産性の視点（成果と投入した時間のバランス）を導入いたします。

具体的には、従来の「業績評価」や「行動評価」による評点に、評価の対象期間中の労働時間に基づく「生産性ポイント」による調整を行うことで、「時間あたり生産性」を評価します。

つまり、限られた時間の中でより高いパフォーマンスを発揮すること、例えば同一の成果であれば、より短時間で効率的に働いている職員を評価します。

この評価方法の導入により、働く時間に制約がある職員を含めたすべての職員に対して、評価の公正性と納得感の向上を図っていきます。

当社の働き方改革のその他取り組み詳細は、以下のニュースリリースをご覧ください。

<http://www.sumitomolife.co.jp/about/newsrelease/pdf/2018/190305.pdf>

以上